

最も純粋な一般競争入札方式(オークション方式)

投資家からの応募状況

投資家	応募価格	応募株式数
A	3000円	1株
B	3200円	2株
C	3400円	3株
D	3600円	4株
E	3800円	5株

新規上場企業(以下、A社)は、募集株式数のみを提示する。

募集価格は提示しない。

最も高い応募価格を申し出た投資家から順に、株式を落札する。

募集株式数が10株の場合、

Eさんが1株3800円で5株落札し、Dさんが1株3600円で4株落札し、

Cさんが1株3400円で1株のみ落札する。

この時、A社の資金調達額は、

$3800 \times 5 + 3600 \times 4 + 3400 \times 1 = 19000 + 13600 + 3400 = 36000$ 円

となる。

仮に、A社は上場時の株式の公募により、30000円を調達する計画を持っていたとしたら、

調達予定額を超える資金を調達できたことになる。

しかし、仮に、A社は上場時の株式の公募により、40000円を調達する計画を持っていたとしたら、

予定していた資金は調達できなかったことになる。

A社がどれだけの資金を調達できるかは、投資家からの応募価格次第となる。

経営的な観点から言えば、事前にどれだけの資金が調達できるかは分からないというのは、

経営計画立案の上で確かに問題が大きいわけであるが、

理論的には、その問題は、買い手が目的物をいくらで買うのかは事前には分からない、

ということと全く同じであると言える。

なお、募集株式数は募集時に必ず提示され、提示後はその募集株式数は変更されない。

なぜならば、保有株式数が議決権割合や会社の利益の帰属割合を示すからである。

一般抽選落札方式(証券会社による買取引受はない)

投資家からの応募状況

投資家	応募価格	応募株式数
A	(3300円)	1株
B	(3300円)	2株
C	(3300円)	3株
D	(3300円)	4株
E	(3300円)	5株

注: 応募価格は全投資家で同じ。

新規上場企業(以下、A社)は、募集株式数と公開価格を提示する。

応募株式数が募集株式数を超える場合は、投資家はいくじを引き、当せんした投資家が株式を落札する。

募集株式数が10株の場合、

くじを応募株式数の合計数である15用意し、各投資家は応募株式数だけくじを引く。

当たりくじを引いた投資家のみが当たりくじの数だけ株式を落札する。

この時、A社の資金調達額は、

$3300 \times 10 = 33000$ 円

となる。

より実務的には、A社が調達する予定の資金額は、公開価格×募集株式数と一致するよう、

募集段階でヒアリング等により公開価格と募集株式数が調整される、と言えよう。

したがって、応募株式数が募集株式数を超える場合は、A社は当初予定した金額を調達できることになる。

逆に、応募株式数が募集株式数を下回る場合は、A社は当初予定した金額を調達できないことになる。